

日本古典文学は、上代、中古、中世、近世という時代別に研究が進んでいます。それぞれに時代別の特徴があり、社会の変化も反映しています。また、もう一方で時代を横断するジャンル別の研究も進んでいます。ジャンルというのは、和歌や歌謡、そして軍記や説話もジャンルを表す専門用語です。

同じ人物でも、時代とジャンルが変わると、キャラクターが違ってきます。平安時代に歌人として賞讃された小野小町は、中世の説話の中では落ちぶれた老婆となっていき、軍記の『平家物語』では平清盛はわがままな権力者ですが、説話『十訓抄』では部下や子どもにも優しい上司として描かれます。このような違いはどこから出てきたのか、考えて見ましょう。

在原業平は菩薩だった!?

中世には『伊勢物語』は在原業平の伝記だと信じられていました。そして『伊勢物語』が能「かきつばた」に取り込まれると、業平は、つきあった女達を極楽へと導く歌舞の菩薩、つまり仏にされてしまいます。中世人の想像力ってものすごいです。



『謡曲画誌』

1735年刊行の能の絵入解説本。
伝説・説話が豊富に取り入れられている。



ひとこと解説

中世に成立した能には、それまでの古典の知識や説話がさまざまにもりこまれ、中世人の教養がうかがえます。

ウタをウタうのは、訴えること。

日本の古い歌謡には、ウタわれた場所が重い意味をもつものがあります。神様をつれてくる「神楽歌」。仏教儀式によりそった「声明」・「今様」。いずれも人に楽しんでもらうためのウタとは違います。神や仏に向かってウタっているのです。つまり声に出してウタうとき、それはこの世のほかにいる存在に訴えかけるためなのです。皆さんが幼いとき口ずさんだおまじない「痛い痛い飛んでいけ」も一種の歌謡であり、声にだすからこそ意味のあるものなのです。一方で、人間のための歌謡、人の赤裸々な思いを表現した歌謡もぞくぞくと作られていきます。古典文学の中のウタはどのような思いを伝えるものだったのでしょうか。考えていきましょう。



姫野 敦子 准教授

●ひめの・あつこ

1967年宮崎県生まれ。1999年東京大学大学院博士課程単位取得退学。専門は日本中世文学、日本歌謡文学。主な論文に「中世文学の中の猫——猫へのまなざしの変化と猫股の登場——」(『清泉女子大学人文科学研究所紀要』第34号)など。



姫野先生って
どんな先生?

◆優しい◆女神様◆濃厚◆日文の母◆ほんわか穏やかな先生◆ゆるキャラ◆いつも親身になって下さる◆気軽に話しかけて下さる◆古典文学と私たちに身近な話題を織り交ぜて話をして下さるので興味が尽きません。◆ゼミナール以外のことも色々とお話かけて下さいます。◆清泉の坂の下で先生と偶然お会いした際、大学近隣にある古本市について立ち話をしたこと。とても盛り上がったのを覚えています!◆お洋服のセンスがとても素敵!ワンポイントアイテムが毎回かわいらしい。

[回答: 姫野先生ゼミナール生]